

MOX燃料

プールの保管長期化恐れ

大半処理めど立たず

二十七日に高浜原発（高浜町）で初の取り出しが始まったプルトニウム・ウラン混合酸化物（MOX）燃料は、通常のウラン燃料と異なり使用後の発熱量が多いなどのリスクが指摘されている。県内では現在、七百六十三体を保管または使用中。多くは処理のめどが立っておらず、原発の燃料プールでの保管が長期化する恐れがある。 〓 面参照 （今井智文）

県内に763体

県内の原発では、新型転換炉「ふげん」（敦賀市）で二〇〇三年の運転停止までに通算七百七十二体のMOX燃料を使用。一部は東海再処理施設（茨城県東海村）で処理されたが、同施設は一八年に廃止作業が始まり、国内に処理できる施設がなくなった。ふげんで

は未処理の四百二十四体が保管され、二二―二六年度にフランスの核燃料会社に搬出される計画となっている。

廃炉作業中で原子炉などからの燃料取り出しが続く高速増殖原型炉「もんじゅ」（敦賀市）では、二百八十七体のMOX燃料が残るが搬出先は未定。日本原子力研究開発機構は二二年までに搬出先のめどを付け

福井県内の原発のMOX燃料保管・使用状況

※ふげんの使用済みMOXはほかに東海再処理施設（茨城県）で153体を保管中

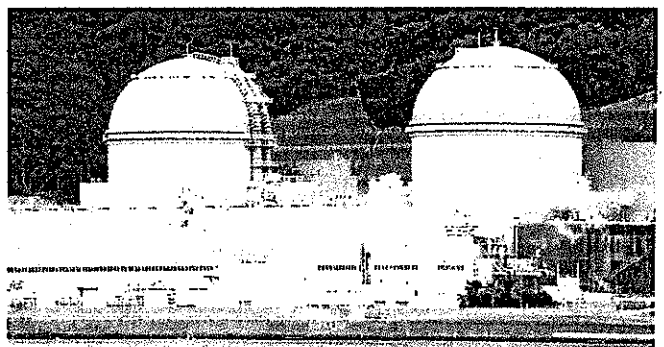
使用済み	使用中	状況	搬出予定
ふげん	424 ※	燃料プールで保管中	2023~26年度に海外搬出
もんじゅ	287	2022年まで燃料取り出し作業	燃料取り出し終了までに結論
高浜3号機	20	8 使用中(使用済み燃料は燃料プールで保管)	未定
高浜4号機	20	使用中	未定
美浜1号機	4	燃料プールで保管中	未定
敦賀1号機		2体を原発から搬出済み	
計	763体		

る方針だが、長期化も予想される。

商業用原子炉では、日本原子力発電の敦賀原発1号機（敦賀市）と関西電力美浜原発1号機（美浜町）でMOX燃料の実証試験を行

った後、高浜原発で本格的なプルサーマル発電を開始。関電のMOX燃料は使用済みが十二体となるが、搬出先のめどは付いていない。

MOX燃料の安全性につ



関西電力高浜原発3号機(左)と4号機(右)27日午後、高浜町で

いて、原子力規制委員会の更田豊志委員長は今月八日の会見で「冷却と保管という点で（通常の）ウラン燃料とMOXの間で大きな違いはない」と強調。一方、民間シンクタンク「原子力資料情報室」の松久保肇事務局長はMOX燃料の発熱量は通常の燃料の三―五倍だとし、「伊方原発で二十

五日にあったような電源喪失があれば、MOXの方が燃料プールの水温が上が